



Alain Cavalier

新文芸坐シネマテーク vol.58

アラン・カヴァリエ特集

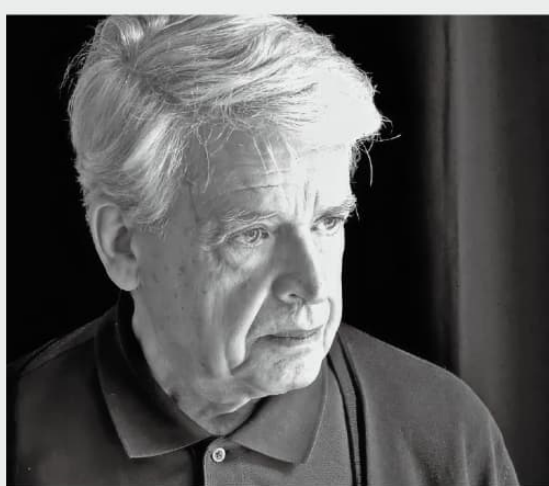
静謐なる不服従

テレーズ リストア版 Thérèse (86)

奇妙な旅 リストア版 Un étrange voyage (81)

リベラ・メ リストア版 Libera me (93)

Alain Cavalier: Une insoumission tranquille 新文芸坐



アラン・カヴァリエ Alain Cavalier

1931年9月14日生まれ。ルイ・マル監督『死刑台のエレベーター』などで助監督を務める。1962年に長編監督デビューを果たし、アラン・ドロン主演『さすらいの狼』(1964)などスターを起用したサスペンスで成功を収めるが、やがてブレッソンのようにミニマルで実験的な独自の映画制作へと移行。実娘カミーユと共同制作した『奇妙な旅』(1981)でレイ・ディリュック賞受賞。カルメル会修道女の生涯を描いた『テレーズ』(1986)でカンヌ国際映画祭審査員賞およびセザール賞作品賞・監督賞を受賞し絶賛された。セリフを廃した『リベラ・メ』(1993)で一つの頂点に達した後、小型デジカメを活用したパーソナルなドキュメンタリーへとさらに過激に作風を一変。95歳となった現在もコンスタントに新作を発表、独創的で自由な映画表現を探究し続けている。

新文芸坐シネマテーク vol.58 / アラン・カヴァリエ特集：静謐なる不服従

『テレーズ』 リストア版

Thérèse

1986／仏／92分／HDデジタル



監督・脚本：アラン・カヴァリエ
脚本：カミーユ・ドゥ・カザビアンカ
撮影：フィリップ・ルースロ
出演：カトリーヌ・ムシェ／エレーヌ・アレクサンドリディス／オロール・ブリエト／クレマン・マサール＝ウエイト／シルヴィ・アポー

15歳でカルメル会修道院に入ることを切望した少女テレーズ。教皇の特別許可を得た彼女は、過酷な信仰生活の中で深い愛と純粋な喜びをもって祈りと奉仕の日々を送るが、やがて病魔に侵されていく。聖テレーズの短くも力強い生を、装飾やBGMを極力削ぎ落とした静謐な映像美で描き出した傑作。カンヌ国際映画祭審査員賞、セザール賞作品賞・監督賞など多数受賞。

『奇妙な旅』 リストア版

Un étrange voyage

1981／仏／100分／HDデジタル



監督・脚本：アラン・カヴァリエ
脚本：カミーユ・ドゥ・カザビアンカ
撮影：ジャン＝フランソワ・ロバン
音楽：モーリス・ルルー
出演：ジャン・ロシュフォール／カミーユ・ドゥ・カザビアンカ／アルレット・ボナール／ドミニク・ベスネアル

電車の旅に出た老母が行方不明になり、中年男性のピエール(ジャン・ロシュフォール)は疎遠になっていた娘のアメリ(カミーユ・ドゥ・カザビアンカ)とともに、線路に沿って母の足取りを追う旅に出る。何日もかけて捜索を続ける道中、反発し合っていた父と娘は互いの心の距離を縮めていく。親子の情愛と孤独を静謐かつ情感豊かに描いたロードムービー。レイ・ディリュック賞受賞。

『リベラ・メ』 リストア版

Libera me

1993／仏／81分／HDデジタル



監督・脚本：アラン・カヴァリエ
脚本：ベルナール・クロンベ
撮影：パトリック・プロシェ
編集：マリニ＝ボム・カルトウレ
出演：アニック・コンシャ／ピエール・コンシャ／ティエリー・ラベル／レイ・ベッカー／カトリーヌ・カロン

架空の独裁政権下の国家を舞台に、弾圧される民衆とそれに抗う地下抵抗組織の闘いを描く。セリフや会話を一切排除し、登場人物の身振り、表情、日常の小道具、そして効果音のみで構成された実験的な意欲作。暴力の不条理と自由への切実な祈りを、静かで鮮烈な映像美で象徴的に浮かび上がらせる。1993年カンヌ国際映画祭エキュメニカル審査員賞を受賞。

開映 終映

10.16 [金] 19:30 21:05 テレーズ リストア版

10.23 [金] 19:30 21:10 奇妙な旅 リストア版

10.30 [金] 19:30 20:50 リベラ・メ リストア版

各日、上映後に映画批評家・大寺眞輔さんの講義が60分程度ございます。

料金：2200円均一

チケット：上映1週間前の0:00よりオンラインにて販売
(劇場窓口は9:00より販売)

※オンライン購入は新文芸坐公式HPよりご利用ください
※上映素材の状態によっては、映像にお見苦しい点がございます

感動はスクリーンから

新文芸坐

03-3971-9422

www.shin-bungeiza.com

twitter: shin_bungeiza

東京都豊島区池袋1-43-5
マルハン池袋ビル3F



大寺眞輔

映画批評家、早稲田大学・日大芸術学部講師。「キネマ旬報」「文学界」「カイエ・デュ・シネマ・ジャポン」などで映画批評を執筆。著書に「現代映画講義」など。IndieTokyo主宰。

